

獣害対策マニュアル

御浜町

まえがき

サル、イノシシ、シカといった獣に、せっかく育てた柑橘や野菜を食べられた、畑を掘り起こされた、苗をボロボロにされた。これ以上、畑に被害を出さないためにはどうすればいいの。

この一番の解決策は地域のみなさまが「集落単位」で広く、根気よく獣害対策をしていくことです。

安心して農林業に取り組めるよう、地域のみなさま全体で協力しあって、獣害に強い集落づくりを目指しましょう。



1. 獣害対策の基本的な考え方

獣は生きるために、栄養あるエサをもとめて集落にやってきます。

そこで、なによりも大切なのは、獣を集落によせつけないことです。集落に獣がよりつかなければ畑の被害は出ません。

しかし、それでも畑に獣がよりついたら、畑を獣から直接守り、物理的にエサを食べられなくすることが必要になります。

次に、集落の近くにいる獣を追い払い、人や集落は怖いと獣に覚えさせ、よりつかせなくします。

そして、最終手段として集落にやってくる獣を捕獲し、原因の元を絶つことが獣害対策に重要です。

このマニュアルでは、獣害対策で特に重要な「獣を集落によせつけない」、「畑を獣から直接守る」をシンプルに記述してあります。

また、このチェックシートを活用することで、実施した策が破られた際の原因を突き止めることもできます。

管理・改善を継続させ、獣害に強い集落づくりに近づけていきましょう。

2. 獣を集落によせつけない方法

集落に獣をよせつけない効果的な方法は、「集落に行ったけど、エサを食べられなかったから、もう行かない（エサ場の価値をなくす）。」、「隠れる場所がないからよりつけない（危険と感じる）。」を獣に徹底的に覚えさせることです。そのため、集落が以下の写真の状況になっていないか確認しましょう。

畑に生ごみを捨てない



放任果樹を処理



二番穂の耕起



収穫残渣の処理



冬枯れをさせる



竹藪の除去



【畑と周辺環境改善チェックシート】

このチェックシートを活用し、獣をよせつけない、狙われない集落作りを目指しましょう。また、獣がよりつく際、その原因もあわせてチェックしましょう。

番号	チェック項目	記入欄
例	地区や集落で獣害対策に取り組んでいる。	○
1	田んぼの2番穂をそのままにせず、収穫後の田んぼを耕運機で耕すなどして、適切に処理している。	
2	誰も管理していない放任果樹が獣のエサにならないよう、実の除去や伐採といった管理している。	
3	収穫しない農産物および収穫残渣、生ごみを放置せず、獣のエサにならないようにしている。	
4	獣の隠れ場所である茂みや竹やぶを除去し、獣が住みづらい環境にしている。	
5	秋に草刈をすると獣のエサになる新芽が増えるため、刈らずに冬枯れさせている。	
6	畑がエサ場にならないよう、集落のみんなで注意しあっている。	
7	被害を受けた際、どの獣にどれくらい被害を受けたか被害状況を記録している。	
8	被害を受けた際、原因を考え、再度被害が起きないように対策している。	

3. 獣害から集落・農産物を守る方法

次に、集落の一番のエサ場になりえる畑を守りましょう。現在、畑を守る手法として、電気柵、金網柵、ネット柵等の防護柵が広く浸透しており、特徴と併せて紹介します。金網柵やネット柵の上に電気柵を設置するなど、複合的に設置、改良していくとより効果の高い柵になります。

柵の種類	特徴
<p data-bbox="443 1010 561 1055">電気柵</p> 	<p data-bbox="810 1010 1222 1055">長所：安価で設置が容易</p> <p data-bbox="810 1155 1410 1290">短所：頻繁に管理と漏電・すきまのチェックが必要</p>
<p data-bbox="443 1491 561 1536">金網柵</p> 	<p data-bbox="810 1491 1145 1536">長所：耐久性が高い</p> <p data-bbox="922 1585 1372 1630">上部に電気柵を設置できる</p> <p data-bbox="810 1731 995 1776">短所：高価</p>

ネット柵



長所：安価で設置が容易

短所：耐久性が低く破壊されやすい

【防護柵の改善チェックシート】

防護柵を設置する際、破られた原因を探す際、以下のことに注意しましょう。

番号	チェック項目	記入欄
電気柵、金網柵、ネット柵 共通事項		
1	獣が侵入できないように畑の周囲に、切れ目なく防護柵を設置している。	
2	防護柵と農作物との距離を 50cm 以上に取り、防護柵越しに獣の手が届かないようにしている。	
3	防護柵の破損個所を見つけたら、すぐに修繕をしている。	
4	水路から獣が畑に入らないよう防護している。	
5	防護柵を設置した後、定期的に防護柵の見回りを行っている。	
電気柵 チェック項目（イノシシ・シカ用）		
1	電気柵の漏電を防ぐため、つるや草がかからないよう草刈りや防草シートをしている。	
2	電気柵の存在を表す注意板を目立つ場所に設置している。	
3	設置場所は舗装道路から 50cm 以上離し、土中にアースを設置し、地面に電気が流れるようにしている。	

4	電線は高低差のあるところも、支柱を増やし地面からの高さを均一にしている。	
5	電線の高さは 20cm,40cm,60cm,90cm で設置してある。 (電線を 4 段以上で設置している方対象)	
6	電線が切れて、通電しない状態になっていない。	
7	電牧器を柵の内側に設置して、サルの踏切場にしていない。	
8	電牧器のバッテリーや電池の残量、電気柵の電圧を定期的に確認している。	

金網柵 チェック項目		
1	金網の下から潜り込まれないように、ペグ等の金具で固定する、または金網自体を地中に埋め込んでいる。	
2	金網柵の高さは 150cm 以上ある。	
3	金網の目の大きさは 50mm 以下である。	
4	金網柵の扉を開けっ放しにしていない。	
ネット柵 チェック項目		
1	ネット柵の高さは 150cm 以上ある。	
2	ネットをシカ側（外側）へ斜めに垂らして張っている。	
3	ネットの下から潜りこまれないようにペグ等金具で固定する、又はネット自体を地中に埋め込んでいる。	
4	ネットの穴の大きさは 50mm 以下である。	

メモ欄